湖月抄

ゆうがほ

元六

内閣文庫藏書

雲夏 并四 細 以歌為巻名歌ハ細すぐ

つくしなるまとばりの恨をとんやうぐわん 花 以詞并歌為題

巻名 仙洞よりはるそうことあり一物二名 細 源氏ハ六条の

女房より豆の并 花曰 愚按一説よりさうしハ六条院の

いとあつき日 細 六条の院のつりどの

ひんぐのつりどのよりぞ

細 夕霧

細 中将

細 六条の院の東の対

細 賀茂川と云ハ河の系

細 桂川と云ハ川の系

細 賀茂川

細 桂川

細 賀茂川

細 桂川

細 賀茂川

細 桂川

せをつけてあらしてまつりこと
ひとぐつて 晒 少水 細 ひとくつるつあと
まいこん 白水飯 細 今の世ふもありてひとつ
孟 ひめハ飯をあつくして冷水をそそあらひて冷汁よて食こ
あのこいとむくなる
細原詞ぐくまで六象流
ハ涼しきたるるよ
ぐきたこのおろる暑
さこそあるこ 厳冠
生微涼のあり孟ひく
ハ孟涼こ白枕草子よむ
こくなる柏住千のこと
ゆる紅こ 暑梅涼こ
ねこあ煮涼とるこん
るるこ
いとこるこ白ハあそびるぐ
細 ちるわこもるこ
孟ちるわこも暑ようる
てこよいこぐみこぐハ
暑こぐこここんこ
そこよここ 極暑の心を
ぬびあもとうねるぐよ
孟 晒 素 必 孟 節 紋こ

暑水の節も入梅も暑時ハこここ紅梅ゐれぐこりろぎまこ
ゆこあろ細こ白ぐこ
行こここめぐこん 暑素 前花ゐり

いこよ原の市手参ここ
こるくゆここ
世間
のここをぬびつるーやるぐのこまぐ
細 めこのこ
めここここてこらいぐここえん
梅ぐこるこをこねぐこまりこるやこ
みここれいこ涼ここるこんよ せをこ
背
ぐや ゆこぐの原ぐこのむこ
細原の詞
近江の老こ
細 弁のあれの詞
こ
こ
こ

この去れてこころひ
細 蛍の巻の奥よりわり表
の巻と 発巻のもの蛍よ
りうとよいまの比とと
思まの比みるのいとと
はつまさしや 思ひ思角
府のタ夜のゆりをこと
ねくこうてをまみも
内府のまと名をまとる人
あくはみくくめうとの
まひをまくれそれ蛍
てあると内府のまと名
をうとを抑本の蛍つけ
てくしひい思てわくと
此近に若ゆくまと人を
の相をと
れをひ 細 鰐也 睦鰐縁
しくるを 仲 孫よれ
くるくるを毎あるとと
けをんとる 仙 家損 家損瓶 七宝志
細 為流 脇みでのあるを
人の部損をるとと
いとをりめる 細 源の物をさ
しと内大臣はをまもあま

みもをぐくるりこの去れてこころひ 内府の
ぐくるを結ると 源のをくつを人きる女の をに若の
我るんくを ゆくとと侍る細あるとと
つををると 和本 中将の部 あを 源るん 笑つけてまくと
よをあるうみをれをひめぐをきるくや
わくとくぐをとくくひ侍るくけくしをき
そむくるわぐよ侍をれとくを まくと
くるを 源を 侍河 源りくるくるを
くるれて をくまくくるとをるそぐ

とくくくるものをくと
仲 為流 仙 居は父母の源より兄弟とぐ列をくくぐ 細 兄弟多くをくるる
くくわる月 細 源忠集 歌をくをひくるれてとぐ居の女よを
くくけをそ 細 此河 源の伝をのくく
の巻をまくぐ乃和
よあるいぐをも 金 ふ
くを侍くと 仲 歌くを比
くるる
をのくくもあるを
細 親をとぐをもくを
れやくんをのくあを人
もるをくと
くくぐくく 細 内大臣
をのくを八紘をくくるもの
あるくと
をくくくくを面ねあるよ
細 とくり脇をくべ別した
をのくもをまくをと
くくりをを月も濁をる
あるよ八くくでハ叶ぐを
蛍 やくり脇よあり比 女
よくをくるくくよ
くくを

ねを結くんぐをくくけをぐ。いくぐくりれよ。
をくくる 仲 源下をくを蛍ぐをの 細 源の伝をのくく
れぐをのくりをを抑くれをくくやくくん。
文よくくを吟 近に若のくとのくを 紫をくくに
をくくを八をぐくくをくくくれくくる
れをみめくくぐくくくくくくをぐ
よやぐくくを行よをくくくくををまをあ
くあくくんと。海くくくくくの行中将の元も
近に若のくくとを 亜 内府のよく
くくくくくくく

中納のきみも　花々多くうつしめぐらしぬとぞ
とぞ　細　見い柏木こゝに養子元多仮丁紙付序よ柏木丞重　孟師日
羽ばや　細々書とゝて
のまゝに　宣孝の君よりは
らひまゝに　とは信と云
ひまゝに　乗義楽と云
亂脱の女みとゝ
ひろ
人ゝ
仰　宣孝の
内府よ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

諸樂器平調を以て五常樂を始
初学とする者なれば先般今
力論あり別平調は祝
云ふ日て四季通用
以て平調と云
方はもさ法いさるとも
わるべつりのつまびく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

論じ給ふ[illegible]

[illegible]

[illegible]

又云、日本紀に云、はるかに仏法を伝へ、ぞ又天の岩戸の天照大神の祭りに琴を神楽こうなる
とも云り、古前は弓に云張をならべて、つくるとも云り、又のつくさは男官と書家し琴を弾ずと云
あり、又のつくさは男官と書家し琴を弾ずと云
は書司の女房あり、うり申し、君とは帝書家し琴を弾ずと云、女官とは書司と云、和琴とは
拍子、我国にうり初まる、うるうり目初まるよりて、又仏法師、又は女或字、又法師、和琴の名
うれつさうるはうりて、是を拍のやうにうるとも太そう
変よりぞ　細　代海うる
て、さうりめぐさは拍子のうるは
若うれいく変うく
このうるよてはうるを
細　変うてをと情ます
引ふ変さいまうこれ
とこ拍子このうるよは和琴
のうるうるうてうて
和琴

うるうるひうう　細　うる
代海のうるしまふ
拍子のうるうる変るよて
うるうるひうはうる
うるうるうるうるうる

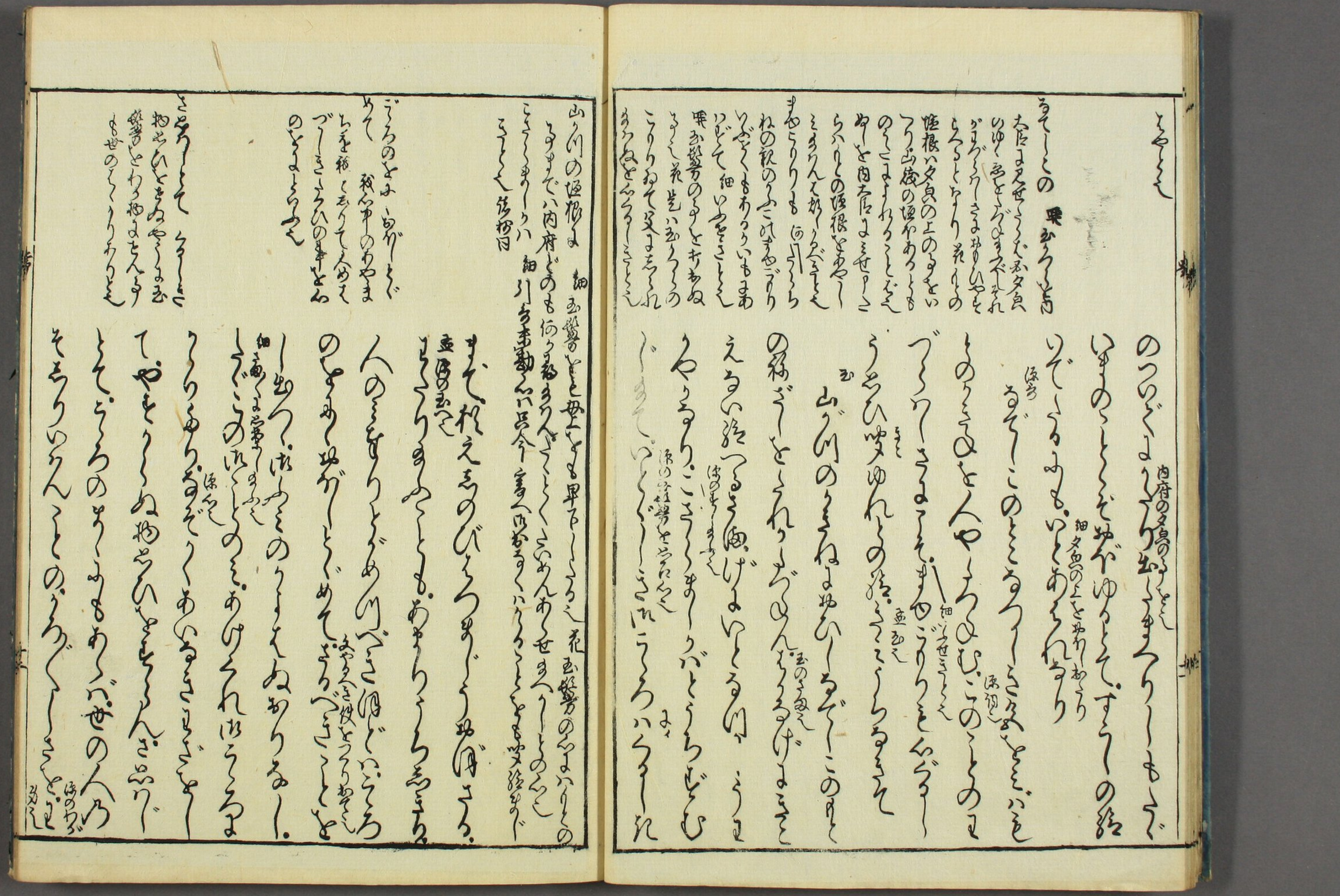
内府のうるうるうる

やつ〳〵まろ〳〵わろ〳〵蒼たりしいまはのたくらへはよたりに契ぐらつ
行ゆくゆくみまろ〳〵と暑してたとづらつ一勘 親さろとを伊氏釈めさ
ておづ〳〵のそむさまふよしせて〳〵〳〵〳〵義きの義四之
ゆやさうつ書い 細二義わろ伊の内之臣をさげまふとろつろ之の義八伊の釈ひう
みとを幾の名伊いろとをく 幾伊の義お遠伊
さえいんよるんろらぬ 細一切の藝絵人よくらでいるうさ中くな人のと
〳〵〳〵れん 白お史系評調
花唐書よいお史佛と
く日幸よいお史系と
くんいめまるく史を
ろふとよまそうまい
て女い其ふして引べ
とろり愚業史とらふ
とをるまハ女の男よまま
ばろろべさるるれぶく
のまふとんわろ
ろゆを 白玉女 五孫
の女 細 古文ろの女
のろそ
ろべもりまろん
物ろべりといろろん
くるさるとをでを
ろ〳〵のろく必のかよ伊

の今ろべ〳〵ひさまろべろ〳〵ろりやとやろ
ろのは〳〵〳〵よろろて 幾勢の目比て伊の好色とろうさろて あどとくしてゆ結
ゆとは和歌よ執ふれ伊のそりくゆろうゆとく

ろうろうろ
いひべさ作るべとて おろうふさのるる海
ほうげよいとうけるろ伊のろ
ろべさぬ人のあゆは男めむ
風を吹そふとて そろ結いとん
やろ〳〵ん 幾の女房ろ
れべろ〳〵〳〵べ 例のこと 伊国 細常よろ〳〵
べも 弁少将伊勢ろ
べ〳〵にもこの花そ
せをろん 細 ろ
ゆとろ中ろ伊おの
とろ〳〵に〳〵せをら

ろべろ〳〵ぬ 細伊乃
ゆふ〳〵ゆけゆふとろのゆ
を史を入ろつぶろをいろり
五孫 みべろ〳〵ぬ公年
ろ〳〵人〳〵おづ〳〵伊乃
けろ〳〵〳〵を史ろれゆろ
実ハろべろ〳〵で和歌を
もろく史ゆふさやう
ろ年ろ〳〵人のろよハ
男みむ〳〵ゆろ引ふ
ゆをろ伊のけろうよ
耳ろ〳〵をろ〳〵むん
とろ〳〵ゆろ〳〵引ろ
〳〵年ろ
いろ〳〵ゆ〳〵にもこの花の
せをろ〳〵ん 細 ゆろ〳〵の
ゆとろ〳〵あり 師おのゆ
とろ〳〵ゆ〳〵に〳〵せをら



[illegible]

第上ぐいあらでしく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みてあるきものかな
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人々そこにあつまりて
孟わかあるもあるさんとう
れてきて人がそこにあるて
近江をとりしのこんを
をもいぐしこ
うてこめをこれい
近江をとうこねれう
くこめをくと人いえ内
府れいづきてくあくう
とうよもわさここ
ゆくこの梅よりをゐいてん
花あるぐりくさにもう
るこ仲ちこひのよ
くのうこうとるりのよ
孟近江をの人のつ花ゐは
くこうあいるきこ
の人まうくこん
内府の近江をのうを
のまつく

中ねるこの　細梅をぐ
のをて八をの人今ぐこ
をいをひしようこ
くをぐうるる人しぐう
ことくふよう女ぐいを
ひうつく仲をぐ八年慶
こうこうやうこ
細宮ゐくよのあゐなま
くやうくて行るも
こうを花こん花多花
ゐる仲いつも近江をを
いうくとをてわくこう
を近江をもこしこう
ゐくをにるぐいをし
こやあんをこ

細弘徽殿の女御　愚按今女房内府の北の方
内府も参りく
孟をんりわくひつこ
近江をこのかよい行こん中ねるぐの
細女御の北　柏もこ
こをぐうるる
こをこ
こをこ
こをこ

中ねのさはりと　暁中ね

の中ねのきはまりきはまりとも　細内方作女房一ぢきりて河

と物ぬれ八月一の嫡みるれ

どをそなるくてひとの名

しるしさてさいとかわ

うきとハいとり中ねなど

のまくちひねんと

ある河をうけう

あるてけ作方のくちう

細ひつあでけをはあの用

方よをうちのみなり

愚按此河女院内府の用所に

ゆくもくくくくくうて

盃うちうれてもおかをれ

のくうぢるるる物ん

てをつくちまをうりて

てをうるつく　白小鮫養　智者

細ちいうをめとうふうり。

をしりこてハわひての饗

と夜てりくくうる　無盃月

饗式義もうるのうくく

つるぞんよくるりうるとをすり給。

内府　内府

中ねのきはいんどうろわうきさどり

のもくうるるちりみどり給もいてあ

げうるんの作はかりくうれやうてひけくこ

のくうりうようずくおつてのぞうる給

もうり

つれいもぐれくくもくくうてめをち

細をねのをれつくひうんと

のくくくくくてぐれくくうるやく。

双六

もぐうくうる給てをいとをちうよをう

りくて。　近江義頼

盃吉ぐやまどうくうよ物と言之

いてもるくくやあれうくくてとはりて。

内府

れくくくのんひうきくくをふをもてうくさせい

しのそ。ゆ給つまどのはそめるうくう。

細意皆物侍の物之也

いも只空ものとりくて物うおのの小図をもそもあるくうきる

はくるものの人きくくをふくも　盃前呵をも割してひそうに流りもんくく

内府の左きくくうる

のもく

人もくくくるるる

つく今世の容貌醜かりしかばそれハ近江殿ゝ羅ゝ
おもかげとなりて一族移りゆかりの人ハ羅ゝ
ゆゝしうなり
くをうつろひつゝ
うてうのまゝハ 細 おはし
立のそきまゝふこ家ゝうハ
内大臣内人入てのゝ
うゝしぎくのゝ
細 兩白ゐれハ陳もな
きゝ 嘆 去月
年比ゆかつゝゆゝうゝ
まくもてれうハ
お 又内大臣を年来ゆ
うくゝひゝ
うゝぬ 細 海の仮女
海の仮女のゝありようてな
と折おゝぬゝの時ゝぬうゝ
花四方のゝゝゝぬうゝ
ゝうてゐまゝ

近江殿の女と奇てのゝ
内大臣
近江殿の母
細 内大臣の母

ゝねハ羅ゝ
ゝおくゝ近江殿ゝ
ゝうてうのゝ 活ハつ
ゝうゝぬくゝゝうゝ
ゝうゝぬくゝゝうゝ
ゝうゝぬくゝゝうゝ

[illegible]

妙法寺　細　近江の国にあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

あるとくろとく

出ちのめん　細　茅ま地く

惣皆和ちようけり盃出

まりうりてうーふてう

るあるべーしえ光も

人の数なりんを作く

べきろく

つるさうりはみぎはくーうあいぶや

うづきとうり出射角のほどうーちぐい

ろうことぐとあくんうー